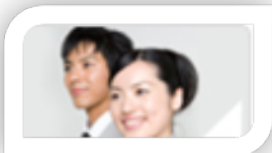


高い公共性をもつ精神医学教室の責務  
個人と社会の精神的幸福の実現を目指して



DEPARTMENT OF NEUROPSYCHIATRY  
GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE, THE UNIVERSITY OF TOKYO

## 精神医療ケースマネージャー 臨床研修プログラム 第2期 研修生募集 (平成25年4月～27年3月)



### 研修プログラム説明会

日時；平成25年 2月1日18:00～

場所；東京大学医学部附属病院 ユースメンタルヘルス講座

申し込み；氏名・所属・年齢をe-mailでお知らせください

E-mail；taraki-ky@umin.ac.jp

#### 1次選考（書類）

・ 締切：平成25年2月15日

・ 履歴書・職務経歴書

・ 小論文（研修プログラムでやりたいこと・1200字）

#### 2次選考（面接）

・ 対象：1次選考合格者 ・ 平成25年2月中

#### ～研修プログラムの対象～

次世代の精神保健・医療を担うプロフェッショナルを目指す多職種の若手の方（精神保健福祉士・臨床心理士・作業療法士・看護師・保健師）  
精神保健・臨床心理・教育系大学院に所属し、臨床研究者を志す方

#### ～研修内容～

大学病院・総合病院における精神医療の実際を、総合的に学べます  
地域精神医療・多職種協働アプローチが学べます  
エビデンスに基づいた心理社会的支援の実際が学べます  
最先端の臨床研究（思春期コホート研究・脳画像研究など）が学べます  
修士論文・博士論文のフィールドとしてご活用いただくことも可能です

# 精神医療ケースマネージャー 臨床研修プログラム 概要

## 研修プログラムの概要

- ・2年間（H25年4月～H27年3月）
- ・週3日～（応相談）
- ・病院臨床実習（病棟・外来）
- ・地域サービス見学（成人デイケア・早期支援サービス・就学・就労支援）
- ・臨床研究への協力・参加
- ・専門医療・先進医療見学・実習（こころのリスク外来・こころの検査入院等）

## 研修の対象

- ・精神医療における総合的な実践能力を現場で身につけたい方
- ・精神医療スタッフとしてのスキルをアップしたい方
- ・研究と実践を幅広く学びたい方
- ・精神保健福祉士、臨床心理士を目指す方
- ・既に精神保健福祉の現場で数年間のキャリアがあり、さらにスキルアップしたい方

## 1年目研修の例

### Lecture

～講義～  
精神医学概略  
精神科クルーズ  
各種研修会  
講演会

### Service & Community

～サービス・地域の実際～  
外来予診実習  
心理検査実習  
こころの検査入院実習  
地域派遣事業見学  
早期支援サービス見学

### Practice

～実践スキル～  
外来・病棟診療実習  
ケースマネジメント実習  
総合病院PSW業務実習  
リエゾン見学実習

### Clinical Research

～臨床研究入門～  
臨床研究見学参加  
研究会・ミーティング参加  
学術集会参加  
データ収集・研究実施  
（修士論文・博士論文等）

内容はご希望に沿ってアレンジいたします。2年目は各自0JTとスーパーバイズに移行していきます。

## 笠井清登

（東京大学 医学部附属病院 精神神経科 教授）

未来型の精神保健・医療とは、ニーズとエビデンスに基づく、一人一人の当事者・市民中心のアプローチです。それによって個人のウェルビーイングが達成され、結果として社会全体の精神的富裕度が高まるのです。このために私たちは、精神保健・予防と医療を、大学病院と地域を、脳科学と心理・社会科学を、当事者と市民を、シームレスにつなぎ、サステナブルな共生社会を目指す総合人間科学の構築を進めています。そうした舞台のなかで、包括的なケースマネジメント能力を持つ次世代の精神保健・医療プロフェッショナルを育成したいと願っています。



## 荒木 剛

（医師・医学博士 医学部ユースメンタルヘルズ講座 特任准教授）

我々は色々な人が自らの力で生きていく上で少しでも手助けができないかと日々の診療を行っております。今後の精神医療において多職種で連携をとって支えていくことが必須となっており、どのような場面にも対応できるスタッフが求められています。本プログラムを活用する精神医療の一端を担う方との仕事を楽しみにしています。



## 菊次 彩

（作業療法士 医学部ユースメンタルヘルズ講座 学術支援専門員）

私は、以前は現場で作業療法士として働いていました。現在は、専門外来での診療支援のほか、思春期コホート研究に主に携わっています。実際に様々な場面に関わることで、専門的な知識のほか総合力やマネジメント力が医療者にも必要となることを実感しています。多くの機会を経験することで、医療者としての視点や可能性も広がると 생각합니다。



## 萩原瑞希

（臨床心理士 第一期精神科研修生）

4月よりプログラムに参加し、様々な経験をさせていただいています。精神医学の知識の基礎固めから臨床現場での活動、研究に関する研修会など実際にはこの期間で経験することができない内容です。そして、何よりも様々な先生方から近い距離でご指導いただく機会に恵まれていることが研修の醍醐味だと感じています。確実に自身の大きな糧になっています。精神医療に携わりたい方は是非参加をお勧めします。



## 北川裕子

（東京大学大学院教育学研究科 第一期精神科研修生）

私は、本学大学院に在籍し研究と並行して本研修プログラムに参加させて頂いております。プログラムの特色は、研究の最前線にいらっしゃる先生方とのdiscussionやクルーズ、東大内の講義を受講できることなどにより自らをupdateし続けられること、興味関心に応じた臨床実習プログラムが用意され、精神医療を包括的に探究できる環境が整っているということです。

